

知多半島圏域地域医療連携検討ワーキンググループについて

1 目的

地域における医療機関相互の連携、機能分担（入院医療における病院間連携の推進や時間外診療の定点化の推進など）について検討するとともに、地域医療再生計画で位置づけられた医療連携について、その進捗状況を把握し必要な検討を行うため、地域医療連携検討ワーキンググループを開催した。

2 日時

平成26年9月16日（火）午後2時から午後3時15分まで

3 場所

半田保健所 4階 大会議室

4 出席者

地域の医師会・歯科医師会・薬剤師会の代表者、高度救命救急医療機関・主な救急医療機関・地域周産期母子医療センターの長、地域の産科医代表、地域の小児科医代表、自治体消防本部の長、保健所長等構成員始め30名

5 議長

半田市医師会の花井会長

6 議題及び発言内容

(1) 救急医療体制の現状

- 3次救急を担っているが、特に土日には、軽症受診が非常に多い。（半田病院 石田院長）
- 1次救急について、知多半島医療圏内で唯一、定点診療を行っている、知多市の休日診療所について、患者さんの立場からは、日曜日の昼間で診ていただけるというメリットがある。一方、担当する医師の立場からは、小児科を普段あまり見てない先生方も診察しなければならない。（知多郡医師会 竹内会長）
- 半田病院で火、金曜日の夜間の時間外診療は、5人の小児科専門医で実施している。お母さん方が、小児科専門医に相談に来ることもあり、1次診療なのか医療相談なのかというところもある。また、患者さんは、半田市以外の方も来ている。（林医院 林院長）
- あいち小児保健医療センターは、平成26年5月から、全日、2次救急を24時間体制で開始した。今年度の終わりぐらいからドクターカーの運用ができるようにし、平成27年度後半には3次救急ができるように繋げていきたい。（あいち小児保健医療センター 前田センター長）
- 消防による救急搬送人員数が年々増えている。人口が減少しているが、その高齢者の割合は多く、その高齢者の搬送件数が増えている。（知多南部消防組合 寺澤消防長）

(2) 周産期医療体制の現状

- あいち小児保健医療センターは、平成27年度から救急医療を開始、その半年後ぐらいにNICUと産科を整備し、平成28年度後半に運用開始予定。(あいち小児保健医療センター 前田センター長)
- 産婦人科医、小児科の医師少なく、マンパワーが不足している状況。(半田病院 石田院長)
- 知多半島ではお産難民はいない、ということは確かである。しかし、搬送の受入体制について、未熟児、低出生体重児、母体搬送を受入れられる体制が、そのような病院が、知多半島に一つはあってもいいのではないか。(ふたばクリニック 今井院長)
- 知多市民病院、東海市民病院及び常滑市民病院において、分娩を行っていない。診療休止の大きな理由は、派遣大学から常勤医師の供給が充分得られないことである。総合病院は、最低でも常勤医3名から4名確保しないことには、円滑な出産を運営できない。総合病院に求められる周産期医療を知多半島の中でどのように割り振っていくか、それに求められる医師を派遣大学から適正な配置で派遣していただける構図を知多半島で確立していかなければならない。このことは、病院独自で構築してもなかなか達成できない現状である。(知多市民病院 浅野院長)

(3) 病院間の医療連携状況

- 常滑市民病院との連携は、全体的にうまくいっている。ドクターの応援体制も実施されている。

知多半島内全体の連携についても、8月21日、公的5病院、知多厚生病院、東海市民病院、知多市民病院、常滑市民病院、と当院の院長で、意見交換を行った。(半田市立半田病院 石田院長)
- 常滑市民病院と半田病院との連携体制は整ってきており、次には、連携の質を上げていきたい。

新病院は、今年5月に移転開院する。中規模病院で、回復期、地域支援病床を持つという性格の病院としてやっていく。(常滑市民病院 中山院長)
- 知多市民病院も東海市民病院も30年の歴史がある総合病院だが、平成22年に経営統合し、この5月に新病院が開院する。

救急部門については、「断らない救急」を実現する。

地域の医療をどのように担っていくか、知多半島で考えるべきで、それぞれの病院の機能は大事なところである。行政もこの基幹病院に適正な医師を配置させる構想を持っていただいて、「病院独自で医者を集める」ということにはなかなかハードルが高い。だから、知多半島に求められる診療科の医師数について、県から、派遣大学に主張していただきたい。(知多市民病院 浅野院長)
- 3つの病院が統合されて公立西知多総合病院となるが、機能的に、パワーアップして、皆さんの御期待に沿えるようにやっていきたい。(東海市民病院 千木良院長)
- 知多厚生病院における25年度1年間の紹介受診件数は1,686件、逆紹介件数は1,824件。

知多厚生病院は、公的医療機関として、地元の医師会と、月に一度、合同症例検討会等を開いたり、出張の講演会をしたりして、連携している。

また、医療情報システムの関係では、当院のシステムは、半田市医師会のシステムと違うが、連携させて充実したものを作りたい。(知多厚生病院 池田事務部長)

(4) その他

- この検討内容について、県に報告した。